

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-B-6	更新日	2025/2/20
サイト名		くりはらいわひ くっさく 来原岩樋掘削と用水敷設の大事業～高瀬川 たかせがわ		
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他		
	所在地	出雲市		
	指定別			
	種別			
	指定／登録年月日			
	管理団体／モニタリング	国土交通省出雲河川事務所		
	周辺施設／アクセス	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場(台)		
留意点				
サイトの解説	歴史・文化	高瀬川は全長が出雲市の大津町来原(くりはら)から出雲市街地の中央を流れ、同市大社町川方に至る11.4kmの農業用水路である。貞享年間(1684～1688年)に灌漑用水路として大梶七兵衛朝泰(おおかじちべえともやす)が開削した水路で、現在650haの農地に用水を送っている。水路となる土地が堆積した砂地であったため、水漏れを防ぐ工夫のいる工事でした。大梶七兵衛は、川底に筵(むしろ)を敷き、その上に粘土を置いて、壁にも厚さ30cmもの粘土を貼り付けた。これは河川改修で壁をコンクリ化する工事で発見されているという。 その高瀬川は、市街地では河畔の南側にはやなぎ並木が続き、農業用水だけでなく、防火用水や生活用水(藍染め等)にも利用され、河畔の住民の生活に潤いを与え、気軽に水に親しむことができる清流である。		
	地形・地質、生物・生態等	高瀬川は出雲平野の旧河道・自然堤防などの高まりを利用して巧妙に開削されている。1700(元禄13)年に完成した「来原岩樋」は固い岩盤にトンネルを掘って造られた高瀬川の取水口。斐伊川左岸に分布する安山岩質の凝灰質砂岩を長さ33mほど掘ってつくられたもので、斐伊川側の部分は、高さ約8m、幅2.5m位、奥行約11mの隧道となっている。岩樋が完成するまでは、大雨出水でしばしば取水口が破壊されていたが、岩樋完成によって恒久的な取水ができるようになったといわれる。新内藤川の上を立体交差する水道橋は「荒木の八間樋」とよばれ、1859(安政6)年に完成した高瀬川の箱樋。これで堀川にまで通水するようになった。		
写真・図等				
	取水口である来原岩樋		高瀬川の中流に立つ大梶七兵衛銅像	
参考文献				